広報 あきた
市民の生活情報誌

明けまして
おめでとうございます！

2008 平成20年 編集発行●秋田市広報課
1月4日号 NO.1664 毎月第1・第3金曜日発行

新春 市長ほっとコラム 中興 世はまさに激動の時代

特集 新旬 元気秋田人 おもしろ活動中！

江戸時代から続く「八橋人形」唯一の伝承者、道川トモさん。土の素材が温かい…

さまざまな困難に立ち向かう、世はまさに激動の時代。

新春ほっとコラム

秋田市長　佐竹　敬久

全国から四万人が秋田に集った「秋田わか杉国体」、そして障害者スポーツ大会「わか杉大会」の感動と興奮の余韻を胸に残しながら、二〇〇八年、平成二十年子年を迎えました。

二〇〇一年の「ワールドゲームズ秋田大会」の時にも感じたことですが、秋田県人は少し腰が重いきらいはあるものの、いざとなると「やる時はやる！」という、潔い気質を持っているようです。今回も、あれだけ多くの市民、県民の皆さんが気持ちを込めてボランティアや応援に参加してくださったことは、改めてこのたぐいまれな〝行動力〟を実証したと言えるでしょう。これからの地域づくりを考えるうえで、たいへん心強く思いました。

今年は「中興」の気概で

子年は十二支のトップバッターです。まさに激動の時代、さまざまな困難な課題に向かって、心新たにスタートしなければならない節目の年ではないでしょうか。

私はこの年頭に当たっての気概を「中興」という言葉で表現してみました。中興とは、「沈滞していたものを活性化させる、元気のないものを元気にする」というような意味を持ちます。

今年は中心市街地再開発の始動、

中心市街地がいよいよ動き出します。

「城下町ルネッサンス」で、千秋公園と中心市街地が一体となった「街なかオアシス」に　(写真は平成16年撮影)

ど真ん中の空き地でライブ！…日赤跡地で開かれた仲小路ジャズフェスティバル

西部地域市民サービスセンターの着工、広く日本に目を向けると中央と地方の格差是正など、これまで長く準備を重ねてきたものが、いよいよ具体的な形になっていく年となります。ここで、秋田市の「中興」に結びつくであろう、市政におけるいくつかの話題をご紹介します。

にぎわいのある新たなまちづくり

秋田市では、今、新たな「中心市街地活性化基本計画」づくりに取り組んでいます。

この基本計画は、空洞化が進む秋田駅西周辺一帯を区域にしたもので、この計画が内閣総理大臣の認定を受けると、国の支援制度を活用してさまざまな事業を行うことができます。

基本計画のコンセプトは、「千秋公園(久保田城跡)と一体となった中心市街地の再生(城下町ルネッサンス)」です。千秋公園と久保田城の城下町だった中心市街地を一体的にとらえ、まちの再生に向けて取り組んでいきたいと考えています。

このほど商店街関係者などの皆さんが組織する中心市街地活性化協議会に原案を提示して意見を伺い、この後、市民の皆さんからも中心市街地活性化への取り組みに関してご意見を伺います。

また、この基本計画には、現在検討が進められている日赤・婦人会館跡地の再開発事業を盛り込んでいます。この再開発事業は、先ごろ土地の大口所有者である県と、民間側の再開発準備組合、秋田商工会議所、そして本市からなる推進協議会で整備方針がまとまったことから、にぎわいのあるまちづくりに向け、いよいよ二十年度から事業が本格化する見込みです。順調に推移すれば、二十三年度には、全体整備が完了する予定です。

これまで長年にわたり空き地だった場所が、再開発事業により、千秋公園と一体となった「街なかオアシス」として生まれ変わります。

民間事業としての全天候型の特色ある商業モールや健康スポーツ施設、居住施設、そして県の中核施設に加え、市の事業として市民の芸術文化活動施設や学生の交流施設、子育て支援施設、多目的広場などを整備することにしています。あわせて、市内どこからでもアクセスしやすいように、大型駐車場も整備する予定です。

中心市街地が再び「秋田の顔」として、市民の皆さんに愛され、にぎわいのある場所となるよう、新たなまちづくりがスタートされます。

(次ページに続く)

市民協働・都市内地域分権の拠点施設に。

西部地域市民サービスセンターは、支所・公民館機能に加え、コミセン・地域防災・子育て支援機能を備えています

地域特性をどう反映する？ 北部地域でも市民サービスセンターのワークショップ開催

市民サービスセンター第1号

都市が真に活力あるまちとして発展するためには、市内の各地域も元気でなければなりません。秋田市は、有形、無形のさまざまな地域資源に恵まれており、東・西・南・北・中央・河辺・雄和、各地域ごとに豊かな個性が育まれています。

本市が、これまで検討を重ねてきた市民協働・都市内地域分権は、身近なサービスを身近な場所で提供し、地域の個性に応じた地域づくりを市民主体で行ってもらおうというもので、その拠点となる施設が各地域の市民サービスセンターです。

第一号となる西部地域市民サービスセンターは、まもなく本体工事の着工となります。市内七地域に設置をめざしているセンターのモデルとして、ワークショップなどを通じ地域の皆さんと練り上げてきた計画に基づいて建設するものです。新年早々、来年の話をすれば鬼が笑いますが、地域の思いがカタチになる、平成二十一年春の完成を楽しみにお待ちいただければと思います。

そして西部に続き検討を進めているのが北部地域市民サービスセンターです。老朽化した土崎支所、土崎公民館・体育館などを複合化により建て替え、子育て支援、地域活動支援、地域防災など時代のニーズに沿った機能を加え、整備していきたいと考えており、昨年は地域の皆さんの参加によるワークショップを開催しています。

ワークショップでは、施設の具体的な内容や地域特性を踏まえて整備する機能など、活発な意見交換が行われました。その中でも、ワークショップ参加者が施設に求める理念として強調されていたのが「地域の交流」でした。市が新たに取り組んでいる家族・地域の絆づくりとも一脈通じるものと感じています。

地域に愛され、住民主体の地域づくりの拠点となる市民サービスセンターにご期待ください。

市長会会長としての多忙な7か月

昨年六月に、全国八百余都市で組織されている全国市長会の会長に就任してから、早くも七か月が経過しました。

全国市長会は、全国の市長が協調・連携しながら、各市の発展のために行政・財政などの調査・研究を行い、内閣や国会へ政策提言や要請活動を行う全国の市の連合機関です。

私は会長として、総理大臣をはじめ各大臣や省庁幹部などに直接会う際は、秋田のことについてもいろいろ話題を出すように努めています。

また、会長の立場から、全国各市の先進情報に加え、産業や学術分野などの第一人者のかたがたも出席する会合での意見交換を通じ、本市の発展に結びつけることができる新しい情報をキャッチする機会も増えました。

本市には、まだまだ国の支援を必要とする事業があります。会長として全国の各市の発展のために力を尽くすことはもちろんですが、置かれた立場を有効に活用して、秋田市にとっても有効な政策提言を行ったり、先進情報をいち早く地元へ伝えたり、秋田の一層の発展にも寄与できるよう取り組んでおります。

市民生活向上のための地方分権

また、このところ国と地方との関係で、「地方分権」ということが大きな話題となっています。本市のような地方都市にとっては、実効ある地方分権への取り組みは、特に市民生活向上に向けて重要な課題です。

地方分権とは、国が持っている権限や財源を県や市町村に移して、地域のことは地域で決められるようにするものです。外交・防衛など国全体が統一して行わなければならないことは国で行い、そのほか住民生活に密着したことについては、その地域の特色にあった政策をその地域で決められるように、国が持っているさまざまな権限を市町村に移そうというものです。

しかし、権限だけでは市町村は仕事ができず、仕事の裏付けになる財源確保の問題も大切です。このため、今まで国が一度集めてから、細々と使い方を決めて地方へ配分していた補助金や交付税についても、地方が地域の取り組みのために直接、しかも住民ニーズに合わせて自由に使えるように、盛んに調整が進められているところです。

地方分権は、今までの日本の経済成長を支えた中央集権制度を見直すことであり、一朝一夕に達成できることではありません。しかしながら徐々に改革の効果は現れてきています。少子高齢化が進み、住民ニーズが多様化した社会にあって、地方が成長するためには、どうしても進めていかなければならない改革の一つです。

地方への財源配分の議論にも熱が入ってきました

絆づくりは心豊かな生活の源

姉妹都市交流などで海外に行くと、日本ほどそれぞれの休日に外でいろいろな事を行い、しかも家族がばらばらに過ごしている国はないのではないか、と実感します。

平成十九年版国民生活白書によると、家族や地域でのつながりがある人ほど、生活全般に満足しているという面白い結果が報告されています。家族団らんの中で得られるやすらぎが、生活の満足感につながっており、日常生活において家族や他者とのつながりがいかに大切かを再認識させられます。

そこで、本年の家族・地域の絆づくりの取り組みでは、仕事と生活の調和、いわゆる「ワーク・ライフ・バランス」をテーマにイベントを開催することにしています。雇用する側、される側、あるいは家庭人、地域人として、いろいろな立場から意見を出し合い、家族と過ごす時間やゆとりの大切さを見つめ直す機会にしたいと考えています。

人と人とのあたたかなつながりは、いじめや家庭崩壊、孤独死など現代社会が抱えるさまざまな課題解決の糸口ともなるでしょう。

「わか杉国体」は終わりましたが、冒頭で述べた秋田市の「中興」が手に取って実感できるものとなるよう頑張ってまいりますので、国体に引き続き、市民の皆さまのご協力をお願いいたします。

絆で安心、絆で満足

国体の盛り上がりそのままに、みんなで秋田を元気にしよう！

新旬 元気 秋田人

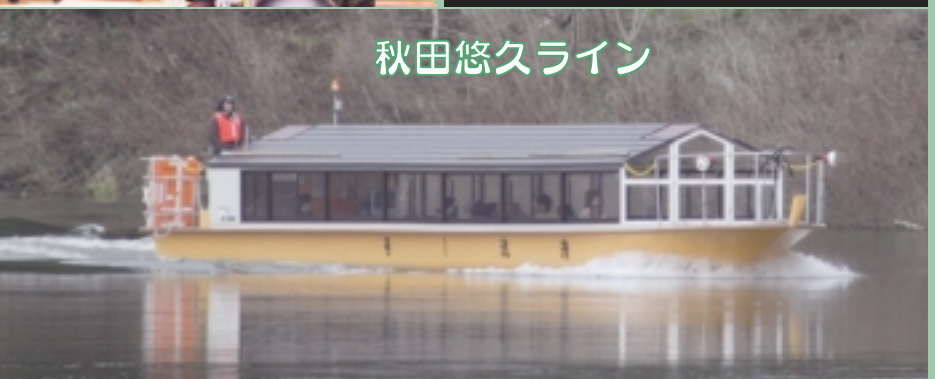
秋田を元気にしようと、さまざまな活動をしている人たち。
まずは秋田を楽しもうよ！
今年も元気な1年にしていきたいですね！

超神ネイガーの漫画本

仲小路ジャズフェスティバル

河辺わさび座

わらしべ貯金箱



秋田悠久ライン

秋田版モノポリー

秋田への愛をペンに込めて

超神ネイガーを漫画化◆奥田ひとしさん

「ショーの雰囲気が伝わるよう、にぎやかな誌面にしました。ぜひ読んでください」

平成19年2月、秋田のヒーロー「超神ネイガー」を漫画化した単行本が全国で発売されました。

作者の奥田さんは、平成2年に東京でプロデビュー。「会社勤めをやめて漫画家をめざしたとき応援してくれた両親への感謝が大きい」と、いつか両親のいる秋田に帰ろうと思い続け、売り上げが300万部を超えた代表作「天地無用!」の執筆が落ち着いた平成16年12月、実家に近い秋田市に転居しました。

出版社が集まる東京から離れましたが、インターネットを使って、仕事はこれまでどおり続けています。「秋田だからダメ、ではなく、やり方しだいです」と話す奥田さん。同じく秋田でがんばるネイガーを応援したくて東京の出版社と交渉し、単行本の発売にこぎつけました。

子どもがおじいちゃん、おばあちゃんと話すきっかけになればとの思いから、全国販売にもかかわらず、セリフはほとんど秋田弁。「私自身が秋田弁大好き、というのもありますけどね」と、秋田で暮らすうれしさが伝わってくる笑顔で話してくれました。

仲小路に音楽で賑(にぎ)わいを♪

日赤跡地でジャズフェス開催◆芳賀洋介さん

「秋田には小沼ようすけがいるじゃないか!ってひらめいたんです」と語るのは、平成19年9月に日赤跡地で仲小路ジャズフェスティバルを開催した実行委員会代表の芳賀さん。「秋田に何か恩返しがしたい」と言う秋田出身のジャズギタリスト・小沼ようすけさんと意気投合し、約2か月間という短期間で準備を進めました。

当日、小沼さんのコンサートには千200人もの人たちが集まってくれました。思いも寄らぬ大成功でした。「お客さんが気軽にジャズを楽しんでくれているのを見てうれしかった。失敗するかもしれないという不安は、秋田でもできるんだ、という確信に変わりました」と芳賀さんは話します。

今年も小沼さんを迎え2回目のジャズフェスティバルを開催します。同日に仲小路でのイベントも計画中。「中心市街地に少しでも活気が戻ってくれたら。目標は、2年間で仲小路の空き店舗をなくすことです」と意欲満々です。

「自分の考えや思いは、常に発信していきます」

ボードの上で秋田をぐるり

秋田版モノポリーを制作・販売◆千葉尚志（ひさし）さん

ゲームの通貨単位は「１ジェンコ、２ジェンコ」。勝敗の決め手は交渉力

モノポリーは、すごろくのように盤上を回りながら、止まった場所の不動産を取り引きしたり、通行料をもらったりして自分の資産を増やしていく、アメリカ発祥のゲームです。

千葉さんが制作した「秋田版モノポリー」は、止まる場所が県内の市町村になっています。「秋田市」には竿燈、「男鹿市」には入道崎と、各地のイラストが描かれ、ゲームをしながら県内観光を楽しむこともできます。

千葉さんの本業はホームページ制作。また、ウェブ上で秋田の出来事を紹介する「秋田経済新聞」を発行するなど、秋田の情報を全国発信することに力を注いでいます。

「今はデジタルの時代。でもアナログな何かを作りたかった。それも秋田独自のものを全国に広げられたら」という思いでゲーム制作が始まりました。完成までには苦労もありましたが、秋田犬をかたどったコマや秋田杉のパーツを使うなど、純秋田産のゲームに仕上がりました。県外のかたにも、とても好評だそうです。

千葉さんは「自分が興味あることを続けているだけ。でもそれを実行しようとする気持ち、そして実行できる環境が大事だと思います。そんな環境や機会が増えたら、秋田は今よりもっと元気になるんじゃないでしょうか」と話してくれました。

秋田で粋な川遊び

雄物川を屋形船で楽しむ◆秋田悠久ライン

屋形船「清流１号」と船長の嵯峨清悦さん(左)、加藤正則さん

雄物川の雄大な流れを、ゆったり進む屋形船。平成19年12月8日、新屋の秋田大橋から雄和のダリア園まで約16キロを遊覧する「秋田悠久ライン」が就航しました。

運営するのは「雄物川船舶観光協議会」。茨島にある立建工業(株)の加藤正則社長が、「山形県の最上川など、屋形船が観光の核になっているところが多いのに、雄物川にないのが不思議で、もったいない」と、商工会や地元企業に声をかけ、8月に設立しました。

屋形船は定員50人で予約制。料金は、昼は片道2千円(中学生千500円、小学生以下千円)、往復3千円(中学生2千250円、小学生以下千500円)。夜は食事と飲み物代込みで3千円～6千円(2時間30分)。「持ち込み自由なので、ガッコを食べながらのんびりおしゃべりなんてどうでしょう。星空を眺めながら一杯、というのも趣（おつ）ありますよ」と、加藤さんオススメの楽しみ方を教えてくれました。「屋形船単独でなく、雄和の農業体験など、ほかの観光資源との相乗効果で秋田の観光を盛り上げたいですね」。

●問い合わせ…秋田悠久ライン tel(824)2777

この日は５人の〝女優さん〟たちが演出会議

笑いと涙…。わたしたちにお任せあれ！

家族の絆をテーマに演劇活動

◆河辺わさび座のみなさん

河辺わさび座の初舞台は平成13年。「ぼけ」「健康」「家族の絆」など、身近な話題をテーマにコミセンや公民館などで公演を重ねてきました。

団員は現在９人。練習は月２回ほど、おもに河辺公民館で行います。夕食を終えた午後７時、手料理やお菓子を持ち寄り、まずは演出会議。が、話は世間話に始まり、いつの間にか井戸端会議で終わってしまうこともしばしばです。「こうしてみんなで話をすることが楽しくてしょうがないんです」と座長の石塚小枝子さん。この〝会議〟が功を奏してか、「団員の絆も年ごとに深まっている」そうです。

観客の反応がダイレクトに伝わる舞台での演技。役になりきり、感情を入れないと思いは伝わりません。「きれいごとでなく、中途半端でなく、そして何より見た人が元気になってくれる演技」がわさび座のモットー。劇を楽しみに待っていてくれる人たちを思い、演技の研究にも熱が入ります。

地域の応援を背に、河辺わさび座はこれからも感動を追い求め続けます。

小さな寄付が驚きの企画に！

〝わらしべ貯金〟をまちに還元◆武内伸文さん

「わらしべ貯金箱」とは、不用品を持ち寄り、その品物を必要な人にあげて、もらった人から寄付をしてもらう一種のチャリティーフリーマーケットです。集まった貯金で社会活動を行います。

平成19年５月にわらしべ貯金箱を始めたＳｉＮＧ代表の武内さん。目的の一つに、物〝そのもの〟ではなく、物の〝値段〟にとらわれがちな世間の考え方を変えていきたいという思いがあります。そのためフリマでは品物の値段を設定せず、購入者自身が値段を決めて、思い思いの金額を寄付します。

この12月でみんなの小さなわらしべは、総額約60万円にもなりました。社会活動第一弾の目標は、ベロ(自転車型)タクシーを購入し市内を走らせること。国体期間中には試験運行をしてみました。

「集まったお金を目に見える形で還元していくことが大切。ベロタクシーを見て、〝私が寄付した100円だ！〟と実感できるとうれしいですよね。今年も遊び感覚たっぷりの企画で、みなさんを驚かせたいです！」と話してくれました。

次回のわらしべ貯金箱…２月６日(水)から10日(日)までの午前10時～午後７時、大町の秋田ニューシティで開催。詳しくは武内さんへ。tel090-2363-0398

大森山動物園ミルヴェ

1月と2月の土・日・祝日は **冬期開園**

みんな来てネ！

開園日（土・日・祝日）	1月…5・6日　12～14日　19・20日　26・27日 2月…2・3日　9～11日　16・17日　23・24日
開園時間	午前11時～午後３時（券売は14:30まで）
入園料	中学生以下は無料　大人300円 ※年間パスポート(1,200円)も使えます
問い合わせ	大森山動物園tel(828)5508

今年もよろしくお願いいたします

謹賀新年

（議席順）

榎橋 智清	議員
高坂 光徳	〃
赤谷川 昭一	〃
長谷川 一	〃
佐々木 晃二	〃
菊地 達雄	〃
相原 政志	〃
芦田 晃敏	〃
佐原 孝夫	〃
近江 喜博	〃
鈴木 忠夫	〃
小木田 喜美雄	〃
渡辺 良雄	〃
相場 金二	〃
菅原 弘夫	〃
花田 清美	〃
小林 一夫	〃
成沢 淳子	〃
猪股 竹作	〃
藤田 正義	〃
加賀屋 千鶴子	〃
小原 千鶴子	〃
鎌田 修讓	〃
工藤 四悦	〃
熊谷 重郎	〃
齊藤 善隆	〃
小野寺 悦	〃
鳥井 誠	〃
堀井 修	〃
石塚 明美	〃
岩谷 秀博	〃
菅原 政良	〃
菅原 博文	〃
今川 琢哉	〃
齊藤 雄策	〃
人見 勝	〃
佐藤 高司	〃
伊藤 哲治	〃
倉田 巧一	〃
佐藤 芳浩	〃
佐藤 純子	〃
宇佐美 洋二朗	議長
加賀谷 正美	副議長
佐々木 敏雄	市議会長
大山 幹弥	収入役
飯塚 敬明	副市長
佐竹 敬久	市長

広報あきた 編集発行■秋田市役所広報課　〒010-8560 秋田市山王一丁目１－１　tel018(866)2034　秋田市ホームページ ■ http://www.city.akita.akita.jp/
■広報あきたがご自宅に届かないときは、広報課にご連絡ください ■この冊子は、単価１部９.45円